

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
廃炉加速化研究プログラム（日英原子力共同研究）**

事後評価総合所見

<p>研究課題名：プラント内線量率分布評価と水中デブリ探査に係る技術開発 代表研究者（研究機関名）：片倉 純一（長岡技術科学大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：奥村 啓介（日本原子力研究開発機構） 再委託先研究責任者（研究機関名）：小田野直光（H27年度、海上技術安全研究所） 再委託先研究責任者（研究機関名）：金 秀岡（H28年4月～5月、海上技術安全研究所） 再委託先研究責任者（研究機関名）：鎌田 創（H28年5月以降、海上技術安全研究所） 英国側研究機関：ランカスター大学 研究期間及び研究費：平成27年度～平成29年度（3年計画） 76百万円</p>			
項目	要 約		
1. 研究の概要	<p>東京電力福島第一原子力発電所のプラント内線量率分布を、計算および実測により評価するための技術開発「線量率分布評価技術開発」を実施する。また、英国研究機関の小型中性子検出器と水中ロボットの開発と連携し、水中の燃料デブリ分布を評価するための「水中燃料デブリ探査技術開発」を実施する。これらにより、プラント内の最確な線量率分布および燃料デブリの分布の評価手法を確立することを目的とし、以下の研究開発を行う。</p> <p style="margin-left: 20px;">1) 線量率分布評価技術の開発 2) 水中デブリ探査技術の開発</p>		
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 10%;">A</td> <td> <p>・燃料デブリ取り出しに有効な技術として、線量率分布評価技術と水中デブリ探査技術の開発がなされ、特に線量率分布評価技術については、廃炉を進める上でのプラント内の線量評価に役立つ成果が得られており、また放射線計測分野への波及効果もあるものと評価できる。</p> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p> </td> </tr> </table>	A	<p>・燃料デブリ取り出しに有効な技術として、線量率分布評価技術と水中デブリ探査技術の開発がなされ、特に線量率分布評価技術については、廃炉を進める上でのプラント内の線量評価に役立つ成果が得られており、また放射線計測分野への波及効果もあるものと評価できる。</p> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>
A	<p>・燃料デブリ取り出しに有効な技術として、線量率分布評価技術と水中デブリ探査技術の開発がなされ、特に線量率分布評価技術については、廃炉を進める上でのプラント内の線量評価に役立つ成果が得られており、また放射線計測分野への波及効果もあるものと評価できる。</p> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>		